

# 平成21年度 矢掛町立山田幼稚園学校評価書

本園のミッション	
豊かな心でたくましく活動できる子ども	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣や態度を身に付けるとともに、主体的に生き生きと行動できるようにする。</li> <li>・さまざまな体験や交流を通して、豊かな心情を育てたり、好奇心を高めたりする。</li> <li>・園での活動の意味や見方を理解していただくとともに、保護者との連携を密にし、信頼関係を大切にしていく。</li> </ul>	

学級数	2学級	園児数	16人
職員数	3人	家庭数	16戸
学校関係者	学識経験者(1人) 山田公民館長(1人)		
評議委員	幼稚園PTA(1人) 保育支援ボランティア(2人)		
	計5人		

A 成果を上げている B ほぼ成果をあげている C あまり成果をあげていない D 成果をあげていない

	領域	中期目標	単年度目標	具体的計画	達成基準	自己評価	評価
1	心身共に健康な子ども	心と体の健康を保ち、幼児の興味や関心、能力に応じて活動できるよう努める。	健康な心と体を育て、進んで運動できるようにする。	運動遊具や用具を使った様々な遊びや集団遊びを計画的に取り入れ、運動の楽しさや健康の大切さを知らせる。	身体を動かす集団遊びやサークル遊びの能力を高め、食事を残さず食べることができる幼児が8割以上いるか。	週に1回わくわくタイムと題して集団遊びを取り入れたり、春や秋の過ごしやすい時期には、運動遊具や用具を使う遊びをできるだけ取り入れたりして、健康な心や体を育てるよう努めた。食事は9割の子が残さず食べができるようになった。	A
2	自立した子ども 基本的生活習慣の	基本的生活習慣を身に付けさせ、自立を図る。	家庭と連携しながら実態を把握し、基本的生活習慣や生活のリズムを充実させる。	基本的生活習慣のアンケートや、必要に応じてがんばり表を作成し実施することで、生活習慣が身に付くよう家庭でも協力していただく。毎週月曜日に週の約束を知らせ、意識付けをする。	アンケートやがんばり表を2回実施し、比較して、生活習慣の定着を8割以上にする。	基本的生活習慣のアンケートやがんばり表を実施したり、毎週週の約束で意識付けをしたりしたが、項目によっては成果が表れていないものがあった。	C
3	思いやりをもつ子ども	身近な人との関わりの楽しさや思いやりの気持ちを育てる。	地域の人や小学生などと関わることで、人の心の温かさや優しさの気持ちを育てる。	年間計画を立て地域の人や小学校、他の幼稚園と交流したり、月に2回、降園時に親子読書をする。	年間計画をもとに交流し、優しさや思いやりが育ったか。	かかわりの年間計画を立て、定期的にかかわる機会を設けたが、小学生との都合が合いにくくすべてを実施することができなかった。しかし地域の方や保護者とのかかわりは計画通り実施でき子どもたちも毎回楽しみにしていた。	B
4		身近な動植物を通して、豊かな心情を育てる。	自然や身近な動植物に親しむことで、生命の尊さや豊かな心情を育てる。	身近な動植物を飼育、栽培したり、触れたりする環境を工夫する。	自主的に優しさをもって飼育、栽培することができたか。	毎日世話をしているインコの死に出会い、子どもたちがお墓を作ったり家から花を持って来てお供えしたりしたことにより、命の大切さやいたわりの気持ちが育っている。この経験をもとに、他の小動物にも愛情をもって世話をすることができている。	A
5		内面理解に努め、教師との信頼関係を確立する。	幼児の生活を見守り、思いに寄り添いながら、個々を受け止め、つながりを深める。	個々の幼児の実態を把握し、職員同士、共通理解をする。	幼児の話をよく聞き、信頼関係を築くことができたか。職員会議や日々の保育の反省の場を設けることができたか。	個々の状態を把握し、言動等、不安定な様子がうかがわれた時には、教師が励ましたりリスクンシップを取ったりして心の安定をはかり、家庭にも協力をお願いした。また、職員間でも子どもの状態を連絡しあっている。	B
6		友だちとの関わりを通して、互いに必要な存在であることを知らせるように努める。	友だちのよさに気付き、一緒に活動する楽しさに気付くことができるようになる。	誕生会等で一人ひとりの良さを認められる場を設けたり、ふれあいタイムと称し、1週間のスケジュールを決め、友だちの楽しさを味わえるようにする。	友だちの良さに気付くことができたか。スケジュールに従って活動することができたか。	誕生会で保護者から我が子への手紙を読んだり、入園前までの写真を掲示したりした。またふれあいタイムにも毎回楽しく参加し、友だちとのつながりも深まった。このような中で、自尊感情が育まれたよう思う。	B
7	環境への好奇心を抱く子どもや	環境に対する興味、関心や、飼育意欲を持つよう努める。	周囲に対して好奇心を抱き、思考力や表現力の基礎を培う。	自然物や掲示物を展示し、共に観察しながら関心を高めさせる。	必要に応じた自然物や掲示物を、工夫して展示することができたか。	季節の自然物を展示したり、小動物を見たり触れたりできる環境を作り、疑問に思うことは図鑑で調べられるようにしたりして、興味関心がもてるようにした。	A
8	表現力の豊かな子ども	自分なりのイメージを作り、創造力を育てる。	個々の表現を受容し、自己表現を十分楽しめるように用具等を工夫する。	描いたり作ったりする場を設け、工夫や表現豊かなところを個々に認める。	個々の作品を認め声をかけたり、作品を鑑賞する場を設けたりすることができたか。	個々の作品のすばらしいところは認め展示する場を設けているが、一齊に作品を鑑賞する機会を設けることは今一步である。	B
9		イメージを動きや言葉で表現する楽しさを経験させる。	音楽に親しみ、楽しんで歌つたり踊つたりできる環境を整える。	計画的に季節や行事の歌やフォークダンスを取り入れたり、自由に体を動かしたりする場を設ける。	楽しんで歌つたり、踊つたりすることができる幼児が7割以上いたか。	毎週ふれあいタイムの中で歌と踊りの日を決め、季節の歌や親しめる曲で歌つたり踊つたりすることができた。また、自主的に曲に合わせて踊りを楽しんでいる子もいる。	A
10	保護者との連携	保護者との連携を密にする。	保護者、担任との連絡の機会を多く設ける。	学期1回の懇談や、週末の連絡会及び、園だよりや通信を発行して信頼関係を作る。	学期1回の懇談と、週末の連絡会及び、通信等で十分連携が取れたか。	懇談や通信物、週末の連絡会は定期的に行っているが、週末の連絡会での内容については検討していきたい。	B

## 分析・改善方策

昨年の評価や反省を踏まえながら評価書を作成し、目標達成のために前向きに取り組んできたが、基本的生活習慣の自立と個々の作品を鑑賞する機会を設けることが不十分であった。来年度はそれを改善すると共に、自尊感情を育むために、今年度行った誕生祝会の工夫やふれあいタイムを持続したり、一人ひとりの良さを認める場を設けたりして個々を大切にしていきたい。

## 学校関係者評価

現代社会では学力・自主性・自由などを重要視しているが、その反面、物事のけじめ・モラル・道徳性などに欠けており自律できにくい子が多いように思われる。そのため保護者はもちろん地域社会とも連携し、善悪の区別・モラル・生命の大切さなどを十分指導し、温かく認めたり励ましたりすることが大切である。そうすることで心が安定し、自尊心・思いやりの心・道徳性も育つと思われる。また、幼稚園での取り組みを一層保護者に啓発し連携する必要がある。

## 来年度の重点・方針

幼児の実態を十分把握し、子どもたちの特性や実態を踏まえて、かかわり、ふれあいタイム、行事等の年間計画を作成したい。そして職員は幼児に寄り添い、共通理解をすると共に家庭への啓発を積極的に行い、家庭と幼稚園が連携し基本的な生活習慣の自立を図りながら、幼児の自尊感情を育み、個々を大切にしていきたい。